

国立国語研究所学術情報リポジトリ

「とりたて」の作用から見えてくる品詞・表現間の連続性：フランス語との対照分析を通して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-01-15 キーワード (Ja): キーワード (En): focus particles, paradigmaticizing adverb, set operation expressions, conjunctions, comparative expressions 作成者: デロワ中村, 弥生, NAKAMURA-DELLOYE, Yayoi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003094

「とりたて」の作用から見えてくる品詞・表現間の連続性 ——フランス語との対照分析を通して——

デロワ中村弥生

フランス国立東洋言語文化大学 フランス東アジア研究所／国立国語研究所 共同研究員

要旨

日本語文法研究において助詞は古くから中心的な研究課題であるが、「だけ」「さえ」「も」などの研究は近年とりたてと呼ばれる現象を扱う枠組みで大きく発展してきた。とりたては日本語では主にとりたて助詞により、フランス語では範列導入副詞 (Adverbes paradigmatisants) と呼ばれるとりたて副詞により表現されるが、この「とりたて」の働きは他の表現形式によって生じる作用と共通あるいは連続している。本論文では、日本語研究で「とりたて」と呼ばれる文法作用を通して見られるさまざまな品詞、表現間の連続性について考察する*。

キーワード：とりたて助詞、範列導入副詞、集合操作表現、接続詞、比較・比況表現

1. はじめに

日本語文法研究において助詞は古くから中心的な研究課題であるが、「だけ」「さえ」「も」などの研究は近年とりたてと呼ばれる現象を扱う枠組みで大きく発展してきた。日本語記述文法研究会 (編) (2009: 3) は、とりたての機能を「文中のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えることである」と定義している。この背景にある同類要素とは、同一の文脈でとりたてられる要素と同じ位置に現れうる範列関係にある要素であり、沼田 (2014) や沖森ほか (2010) ではそれがより明示的に定義されている。とりたては日本語では主にとりたて助詞により表現されるが、フランス語においては *seulement* (だけ), *même* (さえ), *aussi* (も) といった副詞が同様の働きを持つ。フランス語研究の分野でもこれらの表現はある範列の存在を前提として生じさせるとされ、範列導入副詞 (Adverbes paradigmatisants) と呼ばれ研究されてきた (Nölke 1983)。

このとりたての働きは他の表現形式によって生じる作用と共通あるいは連続している。本論文では、「とりたて」と呼ばれる文法作用を通して見られるさまざまな品詞、表現間の連続性について考察する。まず、これらの連続性について考えるにあたり、その根底に流れる共通した意味を明らかにするため、日本語のとりたて助詞、フランス語のとりたて副詞を中心に「とりたて」

* 本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」(プロジェクトリーダー：窪蘭晴夫)の文法研究班サブプロジェクト「とりたて表現」(プロジェクトリーダー：野田尚史)の研究成果である。本論の執筆にあたり、査読をご担当くださった国立国語研究所の査読委員の先生には、草稿を詳細にお読みいただき数多くの貴重なコメントを頂きました。心より感謝申し上げます。

という働きのもとに集められた種々の意味を明らかにすることから始めたい¹。

2. とりたて表現の意味分類

とりたて表現の研究において、それら全体を体系的にとらえようと、すでにさまざまな意味分類が提案されており、限定性や尺度性といった基準が用いられている（茂木 2019）。本論文では、とりたて表現が集合操作表現（江口 2013）と深い関わりをもつものと位置づけ²、とりたての背景となる範列を形成する集合の性質、およびとりたてられる対象とその他の範列内要素との関係に基づいたとりたて表現の分類を試みる。

2.1 とりたての背景となる集合と意味分類のための3つの基準

とりたての背景には、とりたてる対象を含んだ範列が存在する。この範列は、同一の文脈でとりたてられる要素と同じ位置に現れうる同類要素の集合であるが、その範囲は文脈により限定される。「花子は桃しか食べない」の背景にある「桃」を含む範列は、花子の好きな果物を話題にしている文脈であれば果物の集合であり、花子が病気で桃以外の食べ物を一切口にしないという文脈では食物全般を含むより大きな集合となる。

集合論では、集合は要素間に順序関係が定義された順序集合とそうでないものに分類されるが、とりたての背景となる集合も、要素間に順序関係が定義されているか否かにより特徴づけられる（〔±順序〕）。この順序関係には、大小・高低など客観的な序列に関するものだけでなく、評価や推測に基づく主観的な序列に関するものもある。とりたてる要素と他の要素との関係に関しては、他の要素を否定する排他的な関係とそうでないものに分けられる（〔±排他〕）。また、とりたてる際に集合に含まれる要素全体を扱っているか否かという違いも見られる（〔±全体〕）。これら3つの基準を組み合わせることで、8つのカテゴリーが定義でき、それぞれの違いも明確となる。

2.2 8つの意味カテゴリー

(1) は広く限定と呼ばれる用法で、とりたてる対象を除いてそれ以外の同類の要素をすべて排除する。この場合、範列を構成する要素の間に順序関係はないが、限定と考えられている用法でも範列が順序集合であるものもある。(2) では、副詞 *seulement*（だけ）により「中学」がとりたてられているが、その背景となる範列は「小学校、中学、高校、…」といった教育機関から構成され、教育課程の段階に応じた序列のある集合を形成している。そして、「中学」以上の要素

¹ 本論文の例で簡単に構造等の説明をするための単純な文で特に出典の明示がないものは作例による。意味や運用に関わる箇所ではできるだけコーパスから収集するよう努めた。フランス語コーパスは『FRANTEXT』、対訳コーパスは村上春樹著『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』とその仏訳（文中で出典明記の際は「村上」）、フランス語マンガ『ピーカー教授事件（タンタンの冒険）』とその日本語訳（文中で出典明記の際は「タンタン」）、ヴォルテール『ザディック 又は 宿命』（文中で出典明記の際は「ザディック」）およびスタンダール『赤と黒』（文中で出典明記の際は「赤と黒」）とその日本語訳を使用した。

² 江口は一連の集合操作表現に関わる研究において、それらとりたて表現との関連づけを行なっている。江口（2000）で「ほか」の除外用法と「しか」の対比を行なっているのをはじめ、江口（2007）では日本語の集合操作表現において重要な位置を占めると考える数量詞遊離構文ととりたて表現構文との関連性について指摘している。そして江口（2013）では集合操作表現との対比の重要性について言及している。

が排除される部分的な限定になっている。フランス語では (1) の *uniquement* (だけ) には (2) のような部分限定の用法はないことが知られている (Charolles & Lamiroy 2007)。(2) の文も、例えば単身赴任の父が息子の中学の卒業式に出席するために帰ってきたが、他にはどこにも寄らずに赴任先に戻ったという文脈での発話であれば、範列は順序なしの集合となり (1) の限定用法となるため、*uniquement* (だけ) の使用も可能となる。

(1) 限定 [+排他, +全体, -順序]

Demain, la poste sera ouverte **uniquement** le matin.

明日 郵便局 開いている. 未来 だけ 朝

「明日、郵便局は朝のみ開いている。」

(2) 部分限定 [+排他, +全体, +順序]

Mon père est **seulement/*uniquement** allé au collège.

父 複合過去助動詞 だけ 行く. 過去分詞 中学に

「父は中学しか出ていない (直訳: 父は中学にだけ行った)」

(3) は特立と呼ばれる用法であり、同じ性質を有する要素の集合からそれらを代表する要素をとりたてる。限定と異なり集合の他の要素は否定されない。(3) は、月曜日以外は混んでいないと言っているわけではなく、「あの郵便局はいつも混んでいるが」という文に続けることが可能である。同じ性質を有する集合の中からある要素を取り上げるという意味で、(4) の例示と共通しているが、特立は最も意味のあるものが代表としてとりたてられるのに対し、例示は順序づけがない集合から例をとりたてる。ただし、この2つのカテゴリーの境界は実ははっきりしたものではなく連続している。(4) の *notamment* (特に／例えば) は特立と例示の両方の意味用法をあわせ持つと言われている (Nølke 1983)。論文などで参考文献を挙げる際に用いられる (4) も「特に『社会契約論』を参照されたい」という解釈も可能で、例示であるか特立であるかは必ずしも明確ではないのである。これはフランス語に限ったことではなく、日本語でも同様に石黒 (2008) の接続語の研究では「特に」などが「たとえば」とともに「例示」の接続語に分類されている。

(3) 特立 [-排他, +全体, +順序]

La poste est bondée **surtout** le lundi.

郵便局 混雑している 特に 月曜日

「郵便局はとりわけ月曜日混雑している。」

(4) 例示 [-排他, +全体, -順序]

(論文で参考文献を示す際)

On renvoie **notamment** à « Du contrat social ».

3 単主語 参照させる 特に／例えば 『社会契約論』に

「『社会契約論』などを参照されたい。」

(5) は極端と呼ばれるとりたてで、食べやすさを指標として順序づけられた食べ物の中から

「好まれない食べ物」に含まれる「納豆」をとりたて、そのような極端の要素が「食べられる」ことを示すことで、ポールに好き嫌いがなく、あるいはいかに日本食に慣れ親しんでいるかなどを表現する。(1)の限定は〔+全体〕の素性を持ち、「しかし、夕方は開いている」などと続けることは不可能であるのに対し、(5)は範列の要素全体に制限がかかるわけではなく、「しかし、いまだに魚の頭は苦手らしい」と続けることも可能で〔-全体〕の素性を持つ。(6)の類似ではポール以外に来た人が少なくとも一人いることが前提となり、極端のとりたてと〔-排他, -全体〕という素性で共通するが、範列を構成する集合の要素間に順序関係がない点で異なる。

(5) 極端〔-排他, -全体, +順序〕

Paul peut manger **même** du natto.

ポール できる 食べる さえ 納豆

「ポールは納豆まで食べられる。」

(6) 類似〔-排他, -全体, -順序〕

Paul est venu **aussi**.

ポール 来た. 複合過去 も

「ポールも来た。」

(7)は評価と呼ばれるとりたての例であり、「教養はないが、名前くらい書ける」というようにできないことが多数含まれる集合から異質の要素であるできることをとりたてている。集合内の要素は評価に応じて序列づけされており、(7)では「名前を書くこと」が簡単な行為であるという低評価の位置づけも含意している。(5)の極端とは〔+排他〕の素性で異なる。(8)は対比と呼ばれるとりたてであるが、対比のとりたてを表現する副詞はフランス語には存在せず、代名詞の強勢形などを用いて表現される(デロワ中村 2019)。対比と限定は排他的で順序なしの集合を対象としている点が共通しているが、限定が同じ集合の他の要素全体を否定するのに対し、対比は性質の異なる要素が少なくとも1つ存在することを示すにとどまるため〔-全体〕の素性を持ち、限定と異なっている。2つの要素を対比する場合、集合内の要素がとりたてた対象以外に1つしか存在せず〔+全体〕となるが、これは文脈によりもたらされた結果であり、言語的な素性として〔+全体〕を持つとは考えにくい。「うどんしか食べない」という発話は背景となる範列の他の要素をすべて否定するため、それに対し「で、何は食べないの」と返すことは不可能であるが、(8)に対してであれば、例えば「太郎くん、うどん食べる？」という問いに対し太郎の母親が「うどんは食べるよ」と返答した場合に、「え、何だと食べないの」と聞き返すといった状況は日常でも少なからず起こる。これは対比の「は」が範列の他の要素をすべて否定する〔+全体〕という属性を語彙の素性として持っていないことを示している。

(7) 評価〔+排他, -全体, +順序〕

Il sait écrire **au moins** son nom.

3単男主語 できる 書く 少なくとも 自分の名前

「自分の名前くらい書ける。」

- (8) 対比〔+排他, -全体, -順序〕

うどんは食べる。

以上, 8つのカテゴリーを主なとりたての意味と考え, これらの意味を通して異なった品詞・表現間の連続性に関して考察を進めたい。

3. フランス語における前置詞と副詞の連続性

日本語のとりたて助詞の中には「まで」のように動詞との関係を示す格助詞からとりたての用法が派生したのものもある。小柳(2011)によると日本語の「まで」は上代から格助詞の用法と副詞性接尾語の用法があり, 中古に極端のとりたての用法を獲得したという。フランス語では, 主語と直接目的語以外の成分の文における働きは前置詞によって示される。つまり前置詞は日本語の文で格助詞が動詞との関係を示すのと同様の働きをしている。フランス語ではとりたて表現の多くは副詞であり, とりたて機能を持つ前置詞はほとんど存在しないが, *jusqu'à* (まで) は前置詞用法ととりたて用法を合わせ持った珍しい例と言える。

3.1 *jusqu'à* の前置詞用法と副詞の用法

日本語の「まで」と同様に, *jusqu'à* (まで) は, 前置詞として時間や空間の一点を指す名詞句について着点を示すとともに, 極端のとりたての意味も表す。とりたて用法では, 前置詞本来の機能を失い副詞化している。着点を示す格助詞や前置詞がとりたて用法を獲得したこの現象は, 日本語とフランス語には共通するが, 英語やドイツ語, フランス語と同じロマンス語であるイタリア語にも見られない現象であり興味深い。

jusqu'à はもともと副詞 *jusque* と前置詞 *à* からなる複合語であり, 移動の着点を示す前置詞用法では統語的に必須の成分である。(9) では, *jusqu'à* を消去すると非文となる。

- (9) J' ai couru **(jusqu'à)* l'arrêt de bus.
1 単主語 走った まで バス停

「私はバス停まで走った。」(FRANTEXT)

これに対し(10)では, 「親友たち」は動詞「裏切る」に対して直接補語の機能を担い, (11)の「彼らの声の音」は主語を形成している。これらの文では, *jusqu'à* (まで) は統語的に任意の成分になっているだけでなく, 前置詞は本来出現しえない主語や直接補語の位置に現れている。

- (10) Il avait trahi **jusqu'à** ses amis les plus proches.
3 単主語 裏切る・大過去 まで 友達 最も近い

「彼は親友たちをも裏切った。」(FRANTEXT)

- (11) **Jusqu'au** son de leur voix m' étonnait.
まで 音 の 彼らの声 1 単直接補 驚かせた・半過去

「彼らの声の音までが私を驚かせた。」(Grevisse 1993)

3.2 jusqu'à の副詞化にみる連続性

これら動詞との関係を示す前置詞用法ととりたて副詞的な用法の間には、その連続性が示される中間的な用法がある。1つは、ある名詞句を補足説明するために depuis… jusqu'à… (～から～まで) という形で具体例を挙げる用法である。(12) は、日本語訳文と同様に「購入すべき本」とその具体例「イーリアスからマラルメまで」が同格構造³を形成している。

- (12) Madame Badiou nous donne une immense liste de livres à acheter, depuis
バディウ婦人 1 複間接補 与える 膨大なリスト の 本 買うべき から
l'Iliade jusqu'à Mallarmé
イーリアス まで マラルメ

「バディウ婦人はイーリアスからマラルメまで購入すべき本の膨大なリストを我々に与える。」(FRANTEXT)

また、同様の構造でも jusqu'à (まで) を用いて具体例を一つしか提示しないこともできる。この場合、 jusqu'à (まで) がとりあげる要素は極端な例となり、事態の程度が甚だしいことを示す効果を持つ。(13) では、同格構造で「すべて」の補足説明として「この苦しみ」という極端な例が jusqu'à を用いた形で挙げられ、「すべて」がいかに広範囲であるかを強調する効果を出している。

- (13) Tout, jusqu'à cette souffrance, était délicieux.
すべて まで この苦しみ COP. 半過去 心地よい
「この苦しみまですべてが心地よかった。」(FRANTEXT)

一方、他の名詞句に同格構造で補足説明を加えるのではなく、補語を形成する構造内自体に現れる用法もある。(14) では動詞の直接補語として「極度な不安状態が歪めていた」ものが列挙されている。その中で極端な例として「言葉」がとりたてられている。

- (14) Cet état d'angoisse extrême défigurait son aspect, ses gestes, et jusqu'à
その状態 不安の 極度な 歪める . 半過去 外見 仕草 そして まで
ses paroles.
言葉

「彼女のその極度な不安状態が外見, 仕草, そして言葉までを歪めていた。」(FRANTEXT, 一部改変)

このように補語を形成する名詞句の同格構造や補語の内部に現れる中間的な用法を経て、(10)

³ 日本語の同格構造に関しては江口 (1998) などを参照されたい。

(11) のような、前置詞の統語機能を失い、補語を形成する名詞句そのものに係る副詞化したととりたて用法が派生したと考えられる。ただし、*jusqu'à*（まで）はとりたて用法で使用される場合も他のとりたて副詞のようにとりたてる成分から離れたり、動詞複合形の内部に出現して動詞句や補語をとりたてる機能はなく、完全に副詞と同じ振る舞いを示すには至っていない⁴。

4. 接続詞ととりたて

とりたて表現は、とりたてが同類の要素との関連づけによって行われるという性質上、接続詞と深く関わっている。

4.1 とりたて表現の接続詞用法

フランス語のとりたて副詞の多くは文副詞の用法も持ち、とりたて同様のメカニズムで文と文をつなぐ働きをする。(15) では、「彼女の存在が大きかった理由」の集まりから、特筆すべき理由を特立のとりたて副詞 *surtout*（特に）でとりたて、前の文につないでいる。

(15) (彼女の最期の数年間、私にとって彼女の存在はとても大きなものだった。近くに住んでいたので私の入院先にもよく見舞いに来てくれて、退院後もよく家に呼んでくれた。)

Surtout, c'est grâce à elle, indirectement, que j'ai été orientée vers des études supérieures.

「何より、間接的にだが、彼女のおかげで、私は大学に行く決心をしたのだ。」(FRANTEXT)

(16) では、「カウンセリングを受ける利点」のカテゴリーから、唯一利点とならない事柄を異質なものとして *seulement*（だけ）でとりたて、すでに述べられた利点を制限する形で前の文に対比的につないでいる。

(16) (姉達にはかかりつけの医者がいたので、私をそこに連れて行ってくれた。その医者はカウンセリングもやっていて、私は定期的に通った。彼と話すことで私は元気になった。)

Seulement je ne gagnais pas d'argent, j'étais à la charge de mes sœurs, et je me rendais bien compte que ça leur coûtait cher...

「ただ、私は収入もなく、経済的に姉たちの世話になっている身で、この通院が高くついていることも自覚していた。」(FRANTEXT)

このように、接続詞用法では句ではなく文がとりたての背景となる集合の要素となっている。(16) の日本語訳では接続詞「ただ」が文をつないでいるが、鹿島 (2005) によればこの接続詞は副詞「ただ」が接続詞に転生したものとされているという。日本語においてもとりたて副詞がとりたてのメカニズムで文と文をつなぐことで接続詞の機能を獲得した例と言える。

⁴ フランス語のとりたて副詞の主な出現位置についてはデロワ中村 (2019) を参照されたい。

4.2 類似を表すフランス語の接続詞

類似のとりたては2節で見たように〔-排他, -全体, -順序〕という素性で定義され、序列のない集合からある要素をとりたて、同類の要素が少なくとも1つ同じ集合内に存在するという意味を加えるが、同類の要素を明示的に列挙することがある。その場合、日本語ではとりたて助詞を用いて「にんじんもなすも」といった形で表現することが可能であるが、フランス語の類似を表すとりたて副詞 *aussi* (も) にはその機能はなく、並列の関係で2つの語や文をつなぐ接続詞 *et* (そして) を用いる。接続詞 *et* は、通常 (17) のように英語の *and* と同様に *A et B* や *A, B et C* の形で複数の要素間の並列関係を示す。

- (17) *Mon fils aime les carottes et les aubergines.*
 私の息子 好む にんじん そして なす
 「息子はにんじんとなすが好きだ。」

これに対し、ある集合から同類の要素2つをとりたて、どちらも明示する場合には (18) のように接続詞 *et* がそれぞれの要素を示す名詞句の前に現れる。

- (18) *Mon fils aime et les carottes et les aubergines.*
 私の息子 好む そして にんじん そして なす
 「息子はにんじんもなすも好きだ。」

5. 比較・比況表現ととりたて

とりたては、その背景にとりたてる対象となる要素とその同類要素が存在するため、話題の対象と比較対象となる要素が存在する比況・比較表現とも深い関わりがある。

5.1 類似のとりたてと比較・比況表現

類似の構造において同類の要素を明示的に列挙する場合、上に挙げた並列接続詞 *et* (そして) の他に *aussi bien que* (～と同様に) という比較構造を用いて表現することもできる。*aussi* (も) は類似を表すとりたて副詞であるが、*aussi … que* (～と同じくらい) の形で (19) のように岩田ほか訳 (2018) でいうところの尺度的比較における同等を表す構造を形成する。

- (19) *Guy est aussi gentil que Noé.*
 ギイ COP.3 単現 同じくらい 親切だ 比較節標識 ノエ
 「ギイはノエと同じくらい親切だ。」

比較基準を示す副詞として *bien* (よく) が *aussi* (同じくらい) に後接し語彙化した *aussi bien que* は「～と同様に」という累加の意味を持ち (20a, b) の形で同類の2つの要素を明示した類似の表現を形成する。比較表現では他にも *autant que* や *non plus (…)* *que*, *tant … que* など「～と同様に」という累加の意味を持つものが数多い。

- (20) a. Son visage, **aussi bien que** son cœur, avait rajeuni de dix ans.
 顔 累加 心 若返る・大過去 10歳

「顔も心も10歳若返っていた。」(Grevisse1993:692)

- b. **Aussi bien** son visage **que** son cœur avaient rajeuni de dix ans.

また、同様の類似表現は従位接続詞 *comme* (ように) によっても表現される。(21) では日本語原文で「～も～も」を用いて表されている同類の2つの要素を明示した類似の意味がフランス語訳文では *comme* (ように) を用いた比況構造で表現されている。

- (21) a. 私は後見者としても**も**生物学者としても**も**そう確信しております

- b. J' en suis convaincu, en tant que tuteur **comme** en tant que biologiste.
 1単主語 中性間接補 確信する として 後見者 ように として 生物学者

(直訳)「私は生物学者として**そうであるように**後見者としても**そう確信している**」(村上)

5.2 例示のとりたてと *comme*

comme (ように) はフランス語における比況表現ととりたてをつなぐ顕著な例であり、上で述べた類似表現以外にも例示の構造も形成することが可能である。

フランス語において例示は、とりたて副詞 *notamment* (特に／例えば) を用いて (22) のように集合全体を明示した形で表現することができる。直接補語 *le nécessaire* (必需品) が集合全体を指し、*notamment* (例えば) によって示された具体例である *des vêtements* (衣料など) が直接補語の後ろに並置され、同格構造を形成している。「など」を含む (22) の日本語訳文も、江口 (1998, 2013) の同格構造に関わる一連の研究では不定的同格構文と分析される。集合内要素の例を示す「衣服など」は同格的例示句、集合そのものを示す「必需品」はホスト名詞句と呼ばれる。このような同格構造では、日本語においてもフランス語においてもホスト名詞句 *le nécessaire* (必需品) が同格的例示句 *notamment des vêtements* (衣料など) かどちらか一方のみで文法性は満たされホスト名詞句の省略も可能である。

- (22) On leur procure (le nécessaire,) **notamment** des vêtements.
 3単主語 3複間接補 提供する 必需品 など 衣料

「彼らに**衣服など**(必需品を)提供する。」(FRANTEXT, 一部改変)

集合そのものと具体例を明示した形式の例示は、(23) のように *comme* (ように) を用いた比況構造で表現することもできる。(23) では、「大作家たち」という集合の一要素である「パノフスキー」が *comme* (ように) によって具体例として挙げられている。ただし、(22) のような *notamment* (特に／例えば) により形成される同格構造と異なり、比況構造では、集合を示す名詞句は主要部であり、(23) の *de grands auteurs* (大作家たち) を省略すると非文になるという違いがある。

- (23) J' avais vu plus d'une fois évoqué ce Burton par *(de grands auteurs)
 1 単主語 見る、大過去 一度以上 言及される このバートン によって 大作家たち

comme Panofsky

ように パノフスキー

「私はこのバートンがパノフスキーなどの著名な研究者によって言及されているのを少なからず見ていた。」(FRANTEXT, 一部改変)

ただし存在文などの非常に限られた文脈で主要部の名詞句を省略することが可能である。(24)は主要部名詞句のない構造で「欠陥のような(もの)がある」という文の「もの」が省略された形をとっており、「欠陥がある」と断定するのを避けたほかした言い方になっている。

- (24) Il y a **comme** un défaut.

ある ように 欠陥

「欠陥でもあるようだ。」(Fuchs 2014)

この例示表現からほかしの用法が派生する現象は、日本語のとりたて助詞「など」の意味派生とも対応している。日本語記述文法研究会(編)(2009: 149)は他にも可能性があることを暗示してはっきり述べるのを避けるほかしを表す例文として「このブラウスなどいかがですか。」を挙げ、同類のものの中から例を挙げるといふ本来の機能から「単一の要素に「なんか」「など」がついた場合でも、ほかにも同類があるような意味が表され、ほかしの効果が生じる」としている。comme がほかしの効果を生む構造は、対訳コーパスでは例えば(25a)のような日本語文の訳文としての使用が見られる。

- (25) a. 俺にはどうも嫌な予感がするんだ。
 b. […]j' ai **comme** un mauvais pressentiment.

1 単主語 持つ ように 嫌な予感

(直訳)「私は嫌な予感のような(もの)がある」(村上)

5.3 とりたての背景となる集合を示す **comme**

興味深いことに、上述(22)のように主名詞句が集合を示し **comme** (ように) が集合内の一要素を取り上げる構造とは逆に、**comme** の形成する句が集合全体を示す構造も存在する。

日本語の限定のとりたてにおいて、「私の町にはバスしかない」の背景を明示的に示す場合、(26a)のように表現することができる。この構造では、とりたて助詞により形成され集合内要素を示す「バスしか」と集合を示すホスト名詞句が形成する補語「交通手段が」とが共起する構造になっている⁵。すでに(22)の例で見たように、フランス語でも、例示の表現ではとりたて副詞

⁵ 江口(2000)は「太郎は焼酎しか飲み物を飲まなかった」を挙げ、このように集合と集合内要素が共起する「しか」の構造は、「学生が3人来た」のように集合を示すホスト名詞句「学生」と該当する集合要素の数を示す数量詞「3人」が共起する数量詞遊離構文と類似していることを指摘している。また三上(1960)は、

を用いて同格構造により集合を示すホスト名詞句ととりたてる対象を表す名詞句を並置することができるが、限定の表現では、(26b) に示すように限定を表す副詞 *seulement* (だけ) や (*ne…*) *que* (しか～ない) を用いて集合を示すホスト名詞句ととりたてる対象を表す句を並置することは不可能である⁶。

- (26) a. バスしか交通手段がない。
 b. *Il y a des moyens de transport, **seulement** le bus.
 ある 交通手段 だけ バス

限定のとりたての集合を明示する手段としては、*comme* の「～として」という意味を表す用法を用いる⁷。「～として」は集合を示すことが可能であり、(27) では、*comme* で示された「デザート」が集合で、「チョコレートケーキ」はその集合に属する要素という関係である。

- (27) a. よかったらデザートにチョコレート・ケーキもあるけれど。
 b. J' ai un gâteau au chocolat **comme** dessert
 1 単主語 持つ チョコレートケーキ として デザート
 (直訳)「デザートとしてチョコレートケーキがある。」(村上)

comme のこの用法を用いることで、限定のとりたて構造においては (28b) のように背景にある範列を形成する集合を示すことができる。この構造では、*comme* (として) が背景の集合「交通手段」を示し、とりたてる対象「バス」は限定のとりたて副詞 *que* によって示される。この構造においては主名詞句が集合を指しており、(22) の *comme* (ように) がとりたてる対象を示す例示の構造とは逆の構造となっている。

- (28) a. バスしか交通手段がない。
 b. Il n'y a **que** le bus **comme** moyen de transport.
 ない しか バス として 交通手段
 「交通手段としてバスしかない」

類概念 (上位集合) が題目となり、種概念 (集合内要素) が述部に現れる文構造の分析において、「切符ハ、二等シカ残ッテイマセン」を例文として挙げ、その無題化させた形を「二等ノ切符シカ残ッテイナイ koto」としている。この構造もまた数量詞遊離構文に「3 人の学生が来た」が存在することと平行している。

⁶ フランス語のとりたて副詞では、例示・特立の *notamment* (例えば/特に) のほか、*surtout* (特に) や極端の *même* (さえ) が集合を示す名詞句と共起する同格的な構造を形成できる。集合を示す名詞がホストとして共起できないものとしては、限定の *seulement* (だけ) のほかに類似の *aussi* (も) が挙げられる。日本語の集合操作表現は集合を示すホスト名詞句と共起できることが特徴であるが、江口 (2000, 2013) は累加など文脈上で集合を定義する表現と除外といった要素の操作を加える表現とは統語論レベルの違いがあることを指摘している。フランス語とりたて表現構造をこれら日本語の集合操作表現構造において指摘された統語上の特性と照らし合わせて検証することは興味深い研究課題であるが、本稿の論点とは異なるため別稿に譲る。

⁷ これら一見大きく異なって見える *comme* の多様な用法は、Catherine Fuchs の一連の研究においてその連続性が示されている。本論文で取り上げた用法に関わる研究としては Fuchs and Le Goffic (2008) が挙げられる。

5.4 限定のとりたてと比較表現

フランス語では、比較構造を用いた限定の表現も多く見られる。2節で見たように限定は〔+排他, +全体, -順序〕という素性で定義され、序列のない集合からある要素をとりたて、それ以外のすべての要素を否定することを表す。同様の意味は非同一性を示す比較表現を用いて表すことができる。同一性・非同一性を示す比較とは、2つの実体の間にそれらが同一であるか否かの関係を認める作用であるとされ (Fuchs 2014)、フランス語では主に「他の」に相当する *autre* が比較標識 *que* により構成される比較節をともなって形成する。この比較表現を用いて、とりたてる対象と同一でないもの、つまりとりたてる対象以外のものを否定することで限定を表現することが可能となる。

(29) では日本語原文 (29a) でとりたて助詞で表された限定の意味がフランス語訳文 (29b) では *rien d'autre que* 「よりほか何も (否定)」という比較構造を用いて表現され、(30) ではフランス語原文 (30a) で比較構造で表現されている限定の意味が日本語訳文 (30b) ではとりたて助詞で表現されている。

- (29) a. 川の両側のまっすぐに切りたった壁と水の流が見えるだけだった。
- b. je ne distinguais rien d'autre que le mur abrupt longeant tout droit
 1 単主語 否定 識別する・半過去 何も 他の 比較標識 切りたった壁 沿っているまっすぐ
 les deux côtés de la rivière, et le courant de l'eau.
 両側 川の そして 水の流れ
 (直訳) 「川の両側のまっすぐに切りたった壁と水の流れよりほか何も見えなかった」
 (村上)
- (30) a. Et désormais, il ne me faut plus rien d'autre que cette promenade quotidienne.
 これからは 私には必要ない 何も 他の 比較標識 この日課の散歩
 (直訳) 「これからはこのような日課の散歩よりほか何もいらない」
- b. これからはこういう散歩だけを日課に暮らしてえよなあ。(タンタン)

フランス語ではこのような比較表現を使って「限定」を表すことが日本語よりも自然に行われる。日本語においても比較の基準を示す「より」によって形成される「よりほか」が、「しか」が発達する以前から「限定」を示す形式として使用されていた。小柳 (2003) は、中古以前の文献における「よりほか」を現代語の「しか」に相当する形式ととらえ、「よりほかの事なし」が下地となって「しか」が発生したとしている。宮地 (2003) も「よりほか」を「シカ的限定」カテゴリーの専用形式の1つととらえ、近世初期にその使用が中央語・上方語圏で急速に増加したと指摘する。また、「しか」は江戸語圏で発達し近世中期以降の文献において現代語と同じ構文的特徴・用法が確立していることが確認できるとしている。図1は『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』および『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の雑誌データを用いて「しか」と「よりほか」の使用を分析した結果である。1900年以降「しか」の割合が増え、2000年以降のデータでは「よりほか」の使用は1%にも満たない。

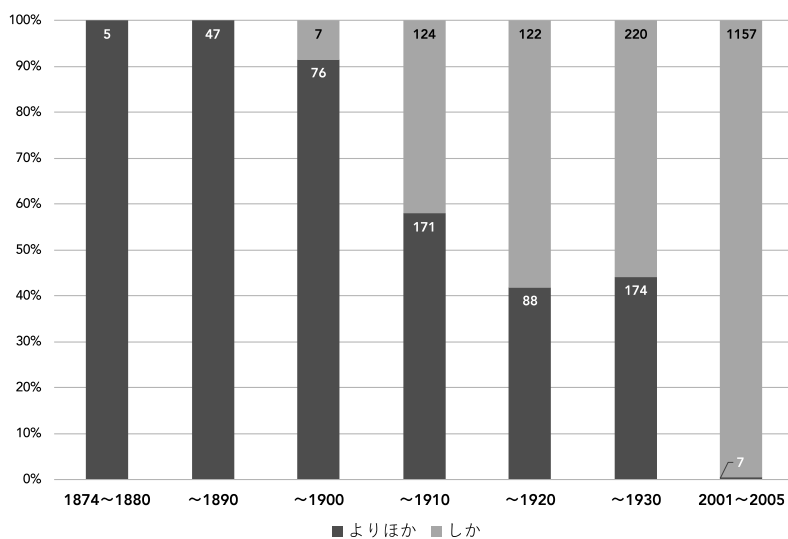


図1 「しか」と「よりほか」の日本語コーパスにおける出現数の推移

同様に、フランス語コーパス FRANTEXT のサブコーパス Corpus moderne (近代コーパス) と同じく FRANTEXT のサブコーパス Corpus contemporain (現代コーパス)⁸ を用いて「しか」に相当する n'a que (しかない) と「よりほか」に相当する rien d'autre que (よりほか何も) の使用を分析した結果を図2に示した。フランス語では、日本語とは逆に近代コーパスでは n'a que (しかない) が、現代コーパスでは rien d'autre que (よりほか何も) の使用の割合が高くなっている。

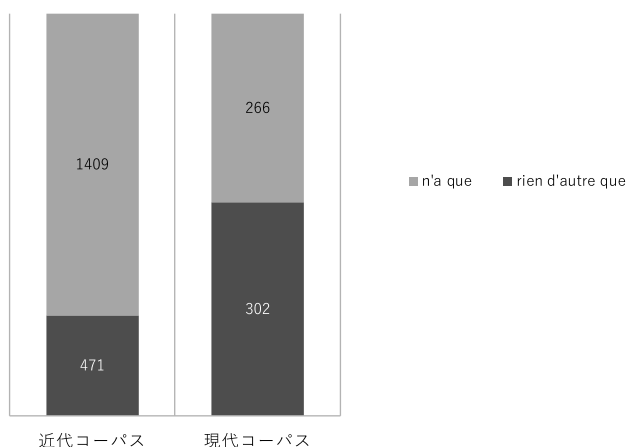


図2 n'a que (しかない) と rien d'autre que (よりほか何も) のフランス語コーパスにおける出現数の推移

⁸ 近代コーパスは、FRANTEXT のサブコーパス Corpus moderne であり、1800年～1979年に出版された3006の文学作品、1億5千万語からなるコーパスである。現代コーパスは、FRANTEXT のサブコーパス Corpus contemporain であり、1980年以降に出版された554の文学作品、3千6百万語からなるコーパスである。

これらのデータは、同じ意味を表すのに使用される形式の傾向は言語によって異なるのみならず、同一言語においても時代によって変化することを示している。

5.5 特立のとりたてと比較表現

フランス語では特立のとりたてが使用されることが多く、日本語の「特に」に相当する *surtout* や *particulièrement* などとりたて副詞の種類も多い。日本語では、とりたて助詞「こそ」やとりたて副詞「特に」「とりわけ」が特立の意味を持つと言われる。(31)～(33)のフランス語テキストの日本語訳では、フランス語の *surtout* の対訳として「なによりも」が使用されている。この「なにより」もまた比較の基準を示す「より」からなる表現である。

- (31) a. Mais à son tour il frappa Mathilde de stupeur quand il lui apprit que ce qui étonnait et intéressait **surtout** la société de Besançon dans l'étrange aventure de Julien, c'est qu'il avait inspiré autrefois une grande passion à madame de Rênal, et l'avait longtemps partagée.
 b. だが、今度はマチルドの虚をつくことになった。ジュリヤンの異常な事件で、ブザンソンの社交界が**なによりも**驚き、興味をそそられている点は、むかしジュリヤンがレーナル夫人からはげしく愛され、ジュリヤンもまた、長いあいだ夫人を愛していたということだと、マチルドに知らせたからである。(赤と黒)
- (32) a. Il remarqua **surtout** que les babouches de sa femme étaient bleues, et que les babouches de Zadig étaient bleues, que les rubans de sa femme étaient jaunes et que le bonnet de Zadig était jaune :
 b. 彼は**何よりも**、妻のスリッパが青く、ザディッグのスリッパも青い。また、妻のリボンが黄色で、ザディッグの帽子も黄色である事に注目した。(ザディッグ)
- (33) a. Il ne savait pas écrire, mais il avait appris à peindre, et savait **surtout** faire ressembler.
 b. 小人は字が書けなかった。が、絵は描けた。また**何よりも**似顔絵がうまかった。(ザディッグ)

特立は、2節で見たように〔-排他, +全体, +順序〕という意味素性で定義され、序列のある集合からある要素を集合全体の中でもっとも典型的・代表的なものとしてとりたてる。この作用は、岩田ほか訳(2018)で言うところの尺度的集合比較において、ある対象 x が尺度の頂点に位置付けられる「 A のなかで x がいちばん～」と同等であると言える。また、この集合比較は、 x とそれ以外の要素を対比することにより項比較「 x は他のなにより～」で言い換えることができるとされる。フランス語副詞 *surtout* (特に) とその日本語訳「なにより」からは、特立のとりたてと比較の間にあるこのような意味的つながりが見えてくる。

6. 結び

本論文では、とりたてと呼ばれるはたらきのもとに具体的どのような意味が集められているかを探るべくとりたての背景となる範列を形成する集合の性質、およびとりたてられる対象とその

他の範列内要素との関係に基づくとりたて表現の分類を試みた。また、それらの意味を通して見えてくる様々な品詞や表現の間の連続性について考察した。日本語研究においてとりたての研究は盛んであり、すでに分析も多角的に進んでいるが、フランス語との対照研究からはまだ新たな疑問も見えてくる。とりたて表現とその周辺的な表現との比較分析、また他言語との対照を通して、とりたての概念そのものがより明確になっていくものと考えている。

参考文献

- Charolles, Michel and Béatrice Lamiroy (2007) Du lexique à la grammaire seulement, simplement, uniquement. *Cahiers de Lexicologie* 90: 93-116.
- Fuchs, Catherine (2014) *La comparaison et son expression en français*. Paris: Ophrys.
- Fuchs, Catherine and Pierre Le Goffic (2008) Un emploi typifiant de « comme » : Un de ces exemples comme on en trouve partout. *Langue française* 159: 67-82.
- Grevisse, Maurice (1993). *Le bon usage : grammaire française*, 13e éd. rev. et ref. par André Goosse, Paris-Louvain-la-Neuve: Éditions Duculot.
- Nölke, Henning (1983) *Les adverbies paradigmatiques : Fonction et analyse*, Revue Romane numéro supplémentaire 23, Akademisk Forlag.
- 岩田彩志・田中秀毅・藤川勝也・辻早代加（訳）（2018）『関係詞と比較構文』Huddleston, Rodney and Pullum, Geoffrey K. (著) 畠山雄二（編）『英文法大事典』シリーズ第7巻, 東京：開拓社.
- 石黒圭（2008）『文章は接続詞で決まる』東京：光文社.
- 江口正（1998）「日本語の間接疑問節の文法的位置付けについて—不定的同格要素として」『九大言語学研究室報告』19: 5-24.
- 江口正（2000）「「ほか」の2用法について」『愛知県立大学外国語学部紀要』32: 291-310.
- 江口正（2007）「形式名詞から形式副詞・とりたて詞へ～数量詞遊離構文との関連から」青木博史（編）『日本語の構造変化と文化化』33-64, 東京：ひつじ書房.
- 江口正（2013）「集合操作表現の文法的性質」藤田保幸（編）『形式語研究論集』155-175, 東京：和泉書院.
- 沖森卓也・阿久津智・井島正博・木村一・木村義之・笹原宏之（2010）『日本語概説』東京：朝倉書店.
- 鹿島恵（2005）「接続詞の「ただし」と「ただ」：先行研究における問題点」『三重大学日本語学文学』16: 118-106.
- 小柳智一（2003）「限定のとりたての歴史的变化—中古以前」沼田善子・野田尚史（編）（2003）, 159-178.
- 小柳智一（2011）「古代の助詞ヨリ類—場所格の格助詞と第1種副助詞」『日本語文法の歴史と変化』1-24, 東京：くろしお出版.
- デロワ中村弥生（2019）「フランス語のとりたて表現」野田尚史（編）（2019）, 293-310.
- 日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法5 第9部とりたて 第10部主題』東京：くろしお出版.
- 沼田善子（2014）「とりたて助詞」日本語文法学会（編）『日本語文法事典』450-451, 東京：くろしお出版.
- 沼田善子・野田尚史（編）（2003）『日本語のとりたて—現代語と歴史的变化・地理的変異』東京：くろしお出版.
- 野田尚史（編）（2019）『日本語と世界の言語のとりたて表現』東京：くろしお出版.
- 三上章（1960）『象は鼻が長い』東京：くろしお出版.
- 宮地朝子（2003）「限定のとりたての歴史的变化—中世以降」沼田善子・野田尚史（編）（2003）, 179-202.
- 茂木俊伸（2019）「とりたて表現の研究動向」野田尚史（編）（2019）, 21-38.

関連 Web サイト

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>（2018年6月11日検索データダウンロード）
- 国立国語研究所（2016）『日本語歴史コーパス』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/chj/search>（2018年6月11日検索データダウンロード）
- Base textuelle FRANTEXT [テキストデータベース FRANTEXT], ATILF - CNRS & Université de Lorraine. Online: <http://www.frantext.fr>.（2020年5月9日確認）

例文出典

新潮文庫の100冊 CD-ROM, 1995, 新潮社より

スタンダール・小林正 (訳) 『赤と黒』, 村上春樹 『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』
エルジェ (著) 川口恵子 (訳) 『ピーカー教授事件 (タンタンの冒険)』 福音館書店

Hergé. *L'affaire Tournesol, Les aventures de Tintin*. Casterman.

Murakami, Haruki. Corinne Atlan (訳) (1992) *La fin des temps*. Paris: Éditions du Seuil.

Stendhal. *Le Rouge et le Noir*. https://fr.wikisource.org/wiki/Le_Rouge_et_le_Noir (2020年5月9日確認)

ヴォルテール (著) 能美武功 (訳) 『ザディグ 又は 宿命』 青空文庫 <https://www.aozora.gr.jp/cards/000180/card944.html> (2020年5月9日確認)

Voltaire. *Zadig, ou la Destinée*. https://fr.wikisource.org/wiki/Zadig/Texte_entier (2020年5月9日確認)

Continuity among Morpho-syntactic Categories and Expressions as Revealed by the Effects of *Toritata*: A Contrastive Analysis with French

NAKAMURA-DELLOYE Yayoi

Institut Français de Recherche sur l'Asie de l'Est, Inalco, Université de Paris, CNRS
/ Project Collaborator, NINJAL

Abstract

In the study of Japanese grammar, the particle has long been a central subject of research. In recent years, research on particles such as *dake sae*, or *mo* has evolved significantly within the framework of studies on the phenomenon called *toritata*. In Japanese, the effect of *toritata* is mainly produced by *toritata* particles. In French, it is generated by a paradigmatising adverb (*Adverbes paradigmatiques* in French). The effects of *toritata* are common or continuous with the effects produced by other terms and expressions. This study examines the continuity among various terms and expressions that can be revealed through the effect called *toritata* in Japanese language studies.

Keywords: focus particles, paradigmatising adverb, set operation expressions, conjunctions, comparative expressions